令和４年度　第１回安来市総合教育会議　会議録

１．日　時　　令和４年１１月７日（月）　１３時３０分から１５時００分まで
２．会　場　　安来庁舎３０１会議室
３．出席者
（構成員）　安来市長　田中武夫
教育長　　秦　誠司
教育委員　小村修司
教育委員　加藤隆志
教育委員　寺田　禎
教育委員　平野千恵
（事務局）　総務部長　大久佐明夫
教育部長　原みゆき
政策推進部長　宇山富之
教育部教育総務課長　遠藤浩司
教育部学校教育課長　三保貴資
政策推進部やすぎ暮らし推進課長　淀谷正臣
政策推進部地域振興課長　石井美佐子
総務部総務課長　神庭　弥
教育部教育総務課総務係長　青戸かおり
教育部学校教育課学事係長　佐伯由里子
総務部総務課総務行政係長　吉原秀和
総務部総務課総務行政係　吉川純平
４．欠席者　　なし
５．傍聴者　　２名
６．議　題　　（１）安来市立小中学校適正配置について
（２）小中学校、高等学校の安来市の教育について
（状況報告）
（１）安来市ＩＣＴ整備に伴う授業改善について
ア　小学校における Pepper の活用について
イ　情報科学高校との協働による Pepper の活用について
７．内　容
○神庭総務課長（司会）
ただ今から、令和４年度第１回総合教育会議を開催いたします。今年度、総務課長を拝命いたしました神庭と申します。よろしくお願いいたします。皆様には、お忙しい中、本会議にご出席いただきましてありがとうございます。議事に入る

までのところは、総務課で進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。まず、傍聴人につきましてご報告いたします。本日の会議に２名の方が、現在傍聴したい旨の申し出がございました。これについては、議長の許可を得ております。また、会議の開会以降、傍聴の希望があれば随時入室を許可するということで議長に確認しております。それでは、傍聴人を入室させてください。それでは、市長がごあいさつを申し上げます。よろしくお願いいたします。

〇田中市長

皆様こんにちは。本日は、令和４年度第１回安来市総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。教育委員の皆様には、日頃から本市の教育行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、安来市総合教育会議につきましては、平成２７年の設置より、これまで安来市教育大綱の策定のほか、部活動や学力向上、ふるさと教育、いじめ問題、ＩＣＴ環境整備等、様々な教育課題について意見を交わしてまいりました。本日は、「安来市立小中学校適正配置」そして「小中学校、高等学校の安来市の教育」この２つを議題としております。

安来市立小中学校適正配置につきましては、令和３年度に安来市教育政策推進会議から受けました提言を基に、教育委員会において、適正配置の基本方針が策定されました。現在は、策定された基本方針に基づき、基本計画を策定するため、２０名の委員により構成される審議会を設置し、議論を進めている状況であります。あわせて、市民の皆様に説明会を開催し、ご意見等をいただいております。本市が目指す学校教育と望ましい学習環境について、教育委員会はもとより、市全体、オール安来で取り組んでいかなればならない施策であると捉えております。従来より取り組むべき課題ではありましたが、これからスピード感を持って取り組んでいきたいと思っております。

また、高校魅力化事業につきましては、令和２年度に情報科学高校、令和３年度に安来高校のコンソーシアムが設立され、それぞれに特色を生かした事業が実施されているところでございます。本市はもとより地方の自治体にとりまして、若者の市外流出は非常に大きな課題となっております。本事業を通じて、進学、就職、定住の人材還流サイクルを構築していくことも、この事業の一つの目的であると考えております。今月から高校魅力化推進員を１名増員し、昨年の１名と合わせ２名体制としており、さらにきめ細かなサポート体制となっております。引き続き、高校魅力化の推進に努めてまいりたいと考えております。

本日の議題の詳細につきましては、事務局から説明をいたします。委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、簡単ではございますがごあいさつとさせていただきます。

〇神庭総務課長（司会）

ありがとうございました。それでは、会議に入る前に本日の資料を確認させていただきたいと思います。事前資料配布としてお送りしたものですが、まず、総合教育会議の次第、総合教育会議の委員名簿、本冊資料が１ページ目から８９ページ目まであると思います。最後に、本会議の設置要綱が１枚、そして本日皆様の机の上に、追加資料として、資料２が、４ページ目から１３の３ページ目までのものを用意しております。ございますでしょうか。

なお、設置要綱第７条により、会議録は公開となりますので、ご承知おきください。本日の会議の終了時刻は概ね１５時、午後３時を予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。それでは、安来市総合教育会議設置要綱の規定により、市長に議長として、この会議の進行をお願いいたします。

〇議長（田中市長）

そういたしますと、定めによりまして私の方で進めさせていただきます。レジメに沿って進めていきたいと思っております。まずは、議題１の安来市立小中学校適正配置についての説明をお願いいたします。

〇遠藤教育総務課長

失礼いたします。教育総務課遠藤です。私からは、議題１、安来市立小中学校適正配置基本計画について説明をさせていただきます。１ページ、資料１、安来市立小中学校適正配置基本計画についてをご覧ください。

１、概要についてです。昨年度の総合教育会議から引き続きとなりますが、中段にありますように、年々児童生徒数は減少している現状の中、学校の小規模化に伴う教育上の諸問題についても、スピード感を持って丁寧に進める考えであるとし、安来市立小中学校適正配置基本方針を令和４年２月に策定いたしました。現在は、安来市小中学校適正配置審議会を設置し、この審議会から答申をいただき、令和５年１１月を目途に、安来市立小中学校適正配置基本計画の策定に向け、検討を進めている状況であります。

続きまして、２、全体計画とスケジュールについてです。安来市立小中学校適正配置の検討に向けたスケジュールにつきましては、現在は、２段目になります。令和４年度から令和５年度にかけて、小中学校適正配置基本計画の策定に向け検討を進めております。また、諮問しております、安来市小中学校適正配置審議会につきましては、答申に向け順調に議論が進んでおります。

３、現在の進捗状況についてですが、計１０回を予定している審議会を、現時点では５回開催し、基本方針に基づく視点からの検討、また、説明会での意見や質問等の報告とあわせて議論を交わし、小中学校適正配置の基本計画策定に向けた検討を行っております。

ここで、２ページの安来市立小中学校適正配置基本計画についてをご覧ください。２の安来市立小中学校適正配置基本計画の策定についてです。１番から３番

までの項目を並行して進めております。

１項目め、安来市小中学校適正配置審議会につきまして、先ほども説明いたしましたが、基本計画の策定のため、審議会へ諮問し、令和５年８月を目途に答申をいただく予定です。

続きまして２項目め、保護者及び地域への説明会についてです。策定された基本方針について、未就学児を含む小中学校の保護者の方及び地域の方を対象とした説明会を、順次開催しております。また、交流センターを核とした地域づくりのあり方検討委員会の進捗状況とも連携し、小中学校の適正配置について、市全体で議論が交わされる気運が高まるよう努めているところです。

続きまして３項目め、島根大学との連携についてです。島根大学教育学部との連携事業により、市内の小中学校を対象とした学校調査、市内の全交流センター及び自治会を対象とした地域調査及び市内 3 地区を対象とした事例地区調査が実施され、その調査結果を提供いただくこととしております。あわせまして、安来市教育委員会と島根大学教育学部との共催により、「みんなで考えよう安来の子ども達と安来市立小中学校の未来～適正配置を見据えて～」を演題として、講演会の開催を１２月１８日、総合文化ホールアルテピア小ホールにて計画をしております。

そして４項目め、基本計画の策定についてです。安来市立小中学校適正配置基本計画につきましては、１番目から３番目までの項目を踏まえ、令和５年１１月を目途に策定する予定であります。

続きまして、本日配付をいたしました、資料２、４ページの説明会の実施状況についてをご覧ください。説明会の実施状況につきましては、中段をご覧ください。令和４年６月から現在も継続して実施しております。１０月１７日時点で、計１０回、延べ３３０人の方の参加をいただいており、引き続き、市内の小中学校及び交流センターにて開催を予定しております。

次ページをご覧ください。説明会時にアンケート調査を実施しており、参加者から回答をいただいております。６ページの５、学校教育や学校の適正配置の関心につきましては、５割以上の方が高い関心があり、総じて、９割以上の方が関心があると回答をしておられます。また、６、地域と学校の関わりについても、関わりがあると回答された方が大半であるといった結果が出ております。

続きまして、7、学校教育において特に力を入れて欲しいことにつきましては、多様な回答がある中、基礎的な学力、自ら考え判断し表現する力、あいさつ、礼儀、道徳等に多くの回答がありました。

続きまして、７ページ８ページをご覧ください。現在、学校等について感じている、良いところ、心配なところを聞いております。学校の規模に関しては、それぞれのメリットデメリットについてのご意見をいただいております。詳細な説

明はいたしませんが、小規模の良さを感じながらも、少人数への不安を抱いておられると分析しております。また、１０ページ以降のご意見、ご質問につきましては、基本計画の策定に向け、審議会に諮問している段階ですので、現時点でお伝えできる範囲を前提として、回答をしております。ご一読いただければと思いますが、特に、我々は説明会に出席されている方に説明しているポイントがあります。

１点目は、現状では学校の継続を希望される意見がありますが、今回の適正配置の検討に至った経緯、見直しの検討や議論が必要である現状、なぜ今議論しなければならないのか、といったことを理由に、基本方針に基づき丁寧に説明をしております。

続きまして２点目です。これは、これまでの教わるというインプット型の教育から、自主的、対話的に学ぶというアウトプット型の教育へシフトしている現状の中、多様な考えに、より多く触れる教育環境が必要であること、また、社会に出てからではなく、早い段階から多様な考えに触れることの重要性を説明していることでございます。

では、最後に１ページにお戻りください。下段の４、今後についてです。審議会の開催と保護者及び地域の説明会を連携して進めながら、また、小中学校の適正配置をテーマとした講演会の開催を計画する等、小中学校適正配置基本計画の策定に向けて、市全体の気運を高めながら検討を進める予定であります。私からの説明は以上です。

○議長（田中市長）

説明が終わりました。皆さんからご質疑をいただきたいと思いますが、まずは、秦教育長何かございますか。

○秦教育長

そうしますと、安来市の小中学校適正配置の検討につきましては、冒頭の市長あいさつとして、事務局等から説明がありましたように、基本方針を受け、現在、基本計画の策定に向けまして、審議会に諮問をして、審議をいただいているということでございます。確認でございますが、諮問の内容は３点ございまして、基本方針に基づく適正配置のあり方について、２点目としては、基本的な進め方及び計画期間について、３点目は、具体的な取組方策について、この３点をご審議いただくというようなところをお願いしております。

５回開催しているという報告がありましたが、４回目まではどちらかというと復習といいますか、基本方針を皆さんで共有するという形で、先月開催しました審議会で第５回目ですが、そこからいよいよ、計画策定に向けた本格的な話し合いをしていただいているという現状になっています。前回の第５回目の審議会におきましては、学校教育、地域連携、施設設備という３つのテーマで、グループ

で自由に討議をいただいたところでございます。私の印象ですが、学校教育につきましては、小規模校の良さや課題を踏まえた上で、より充実した教育活動をするには、一定の規模が必要であるというような方向性ではなかったかなというふうに思っています。地域連携の方では、どちらかというと学校があった方が地域の繋がりが保てる、というような方向性であったかなというふうに感じているところでございます。施設整備では、例えば交流センターや児童クラブ等の複合施設も検討してみてはどうかということであったり、定住や人口政策等、市の施策とつなげて検討していかなければいけない、というようなご意見があったように思います。

教育委員会でも、これまで様々な説明や、審議をしていただいており、答申をこれから審議会からいただくわけですが、答申を基に、教育委員会として基本計画を策定するに当たりまして、総合教育会議でも適正配置のあり方について議論をし、そして、考え方を共有しておくことが大切であるというふうに考えておりまして、要は皆様方それぞれのご意見を、しっかり出していただけたらなというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。以上です。

○議長（田中市長）

では、教育長の意見もございましたが、改めまして委員の皆様、ご質疑、ご意見ございましたらお願いします。

○寺田委員

審議会の方でいろいろ審議していただいているところでございますし、また、いろいろな地区で説明会がある中で、やはり一番の問題は、今後、子ども達がいかにして勉強できる環境を作るか。ただ、今の時点で考えたものを寄せても、また今後減っていくのでは全く意味がなくなってしまうということで、行政ばかりではなく、これは全部、市のいろいろなところと話し合いながら、人口を少しでも食い止める、もしくは増やしていくという方法がなされないと、狭いところだけで考えて寄せ集めました、しかし減りました、次またどうしましょうか、ということだと、いたちごっこになってしまうと思います。

そこで、教育の方、行政の方でできることということは、教育、今、誰もが思っているのは、島根県、特に教育のレベルが全国平均より若干低いのではないか、そしたらどのようにして上げていくのか、そこで一つ私の考えとしまして、学校教育だけでは、なかなか先生方も限られた時間で教育の質を上げることは難しい。そこで、例えば学校を寄せた場合、教育後援会を今後は違った形で作っていくわけですが、その中にサポートティーチャーみたいな、先生を定年退職された方も入っていただいて、校外、授業外の学習を支援する。今年の夏、伯太の中学校の校区でされましたが、自習を見てあげる。学校の中ではなかなか認識できないところでも、サポートしてもらいながら、要するに安来留学みたいなことをしても

らえれば、他所からも教育の質が非常に熱心だからということで、利用される子どもさん、親御さんも出てくるのではないかという気がしています。予算的なものもあると思いますが、そういったものは、市長さんの考えとしてはどうでしょうか。

○議長（田中市長）

そうですね、なかなかいいことだと思っていますし、今、ＩＣＴ教育は、安来は特に県内でも進んでいるとのことですので、評価も上がっておりまして、子どもさん自体が人の話を聞く、先生の話を聞くということがなかなか、私が見る限りですね。なんというか、対応する姿勢というのが、今、全然変わってきていると思っていまして、一般的にも、人の話を聞くということよりも、タブレットやスマホを見てと、集中力ですかね、勉強されるかもしれませんが、やはり集中して人の話を聞くとか、そういったことをもう少しやっていただくために、今言われたサポートティーチャーとかそういうことを、活用すればいいのかなという気持ちはありまして、なかなか今コロナ禍の中で、自宅に籠もりがちかと思われますので、その辺りは地域を挙げてなんとかする体制をとればというふうに思っておりますが、なかなかすぐこうしたらいいという方針はまだないため、皆さん方と話し合って進めていければと思っております。他に何かございませんでしょうか。

○加藤委員

今いろいろ説明を受けて、そういうこともあろうかと思いますが、やはり時間がないなというふうに思っています。私も教育委員になってもう７年経ちますが、その頃と今とでは、子どもの出生率といいますか、子どもの数が本当に激減、こんな本当に減るんだなというような、多分想像以上だと思います。事務局の方で多分予測した数値よりも、かなり加速して減っているというふうに私は思っていますが、基本計画の方も、来年策定するということになっておりますが、またその先のことも考えていかないといけませんし、あまり時間がない中で、地域への説明会を実施していただいておりますが、まだ関心度が私は低いような気がしますので、もう少しＰＲを、声を大きくしていただいて、いろいろな集まりのところに、出前出張じゃありませんが、足繁く通って、あるいは、１町内では２度３度もできるようにしていただいて、事務局の方が大変ですが、それくらい気運を高めていかないと、地元の方の理解も得られないでしょうし、最終的に諦めムードみたいなことになってもいけませんので、明るい将来を考えた上での、子ども達の学習環境の整備ということも考えないといけませんので、もう少しスピード感を持ってやっていかないといけませんし、この委員の４人もそういう自覚ですので、またいろいろなことがあれば、市長さんの方からあれやれこれやれと言っていただければ、考えたいと思いますし、実際、まだまだ我々の努力不足だと思

いますので、またそういった情報共有もしながらやっていきたい思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（田中市長）

言われるとおりでございまして、ＰＲといいますか、私、ずっと今４０ヶ所くらいで市の情報をいろいろと説明していまして、その中で必ずこの問題も言いますが、なかなか総合的に、５つの項目に分けてやる、財政や公共施設や小中学校適正配置や、そうするとそこに割く時間も少ないですし専門でもございませんので、あまり私見は言いませんが、ご案内のとおり、去年の出生数は１７８人でして、以前、平成２７年くらいでは２７０人後半だったのが、一気に１００人近く減っていまして、しかも、だんだん減っておりまして、だんだん減ってくるところで、こういった話をもっと早くしないといけなかったとは思っていますし、この前気がつきまして広瀬の方でそういう話をしていますと、広瀬は中学校はもう統合しておりまして、広瀬町の方で、統合した時にどんなことがあったのかは私は分かりませんが、そういったことも参考にしながらやっていければとは思います。うちらはもう早々と統合してしまった等と言われますので、人数的にどうかということはありますし、急速に時代が変わってきていて、またこれからも変わりつつあることは事実ですし、もう少し多く説明会をしないといけないとは思っています。

○小村委員

先ほど言われたように、子どもの数が年々減っているというのは事実ですし、人数減少に歯止めがきけばいいのですが、増えることにこしたことはありませんが、なかなか現実的にすぐそれを望めないかなということで、今回の適正配置でも、前回教育委員会の中でもいろいろあったのですが、もっと先を見据えると、さらにまた、というようなことも起こり得るということを、ある程度その辺の先も見越しておかないと、新しい校舎を作ったけどまたいらなくなったとか、そういうことが起こってくるということで、何年先と具体的なことは分かりませんが、それは教育行政のみならず市全体のビジョンとして、将来的にはものをある程度持っていないと、今回の適正配置で何か新しい学校を一つ作った、しかしまた、他と一緒になるのでいらなくなったとか、そういったことが起こり得るので、その辺のことも見通しを持って、今回の適正配置について検討していかなければと、これはこの間、委員会の中で出た内容でございますが、その辺りを検討いただきたいと思います。

○議長（田中市長）

市長会とかで話をしてみますと、県内各市町村ほとんど１回やっていまして、もう２回目になると、事実そう言われます。ですから、こういった話し合いが、安来は１回目、他所はもう２回目か３回目くらいだそうです。それだけ時代が早

く進んでいるのに、なかなか手がつかなかったというようなこともあり、皆様方にご迷惑をかけているところでございますが、要するに、少し先を見据えてやっていかなければと思っています。

それともう一つは、議員の時から移住相談によく行きますと、ご家族で来られる方は少なく、単身で安来に向かって来られる方は結構おられます。単身で来られて、そこでご結婚していただけるかというと、なかなか難しいことですが、それも大事だと思っております。来ていただくことも大事だと思っていますが、今これから安来のこの環境といいますか状況の中では、この中海・宍道湖圏域の中では、なかなか場所ももうございませんでして、農地もそうですが、土地そのものが、他にはないということを言われておりまして、線引き制度もあったりしましたし、いろいろ大きな企業があって、なかなか他の企業の進出がなかったということもあったりして、安来はそういうとこだということは思います。

人に来ていただくことが先なのか、仕事とか環境整備をされてなかったと思うので、やはり仕事を作っていくということが大事だと思っていまして、昔、私の先輩とか同じような年代が、日立金属に勤めようとして、奥出雲とか、中山間地から出てこられてできた街が、加茂とか城谷の辺りですよね、そういうこともあって、やはりこう仕事場があると、かなり人に住んでいただけるのではないかと思います。従来、農地だから、線引きがあるから住宅地ができないとか、それは違いますので、行政が本気になればいくらでもできることですので、そういうことをやってこなかっただけですので。私は農業関係の仕事もさせていただいていますが、いくらでもできますので、農地は農地できちんと開発しますし、そういう、人が住む、住める町というものを、また別な角度でやっていかないといけないと思っています。

それから子どもさん、そういったことも含めて、今、小村委員が言われましたように、次の世代、その次の次も見据えたことも、考えの一つにしていただければというふうに思います。他にありますでしょうか。

○平野委員

適正配置を考えるところで、今、中学校は、１学年で２クラスを維持できるような生徒数を確保するのが望ましいと言われていますが、先ほどから委員さんのお話があるように、今は、広瀬中だって統合して生徒数を確保できているが、十数年後には分からないというようなそういう状況が見えてきている中で、今、現時点である中学校区をそのまま使って、その適正配置をするのかどうか、それとも中学校区を再編というか、もう１回再検討しなければいけないかもしれない、というところにきているのではないかという心配があったり、しかし、小中一貫校という新しいスタイルを取り入れようとすると、小学生の通学時間や距離がすごく長くなってしまう子がたくさん出てくるのではないか、それはあまり望まし

くないのではないのかというところが、少し心配なところですがどうお考えでしょうか。

○秦教育長

平野委員のおっしゃるとおりで、説明会の意見の中にも、旧市・町での単位で、そこは大事にしないといけないという意見もあれば、もう安来市として考えていった方がいいのではないかというようなアンケートの答えもあり、どう決めていくかが非常に難しいと思います。今言われた小中一貫校というのは、例えば小学校と中学校で９年間の小中一貫というと、全校児童・生徒で２００人くらいになりますが、中学校だけ、後期課程だけを見ていくと、実は１クラスであったりというような形で、前回の審議会でも学校の種別というか、どんな形の学校があるかという説明もしましたが、一貫校のメリットもあるが、１学年で２クラスという方針の目安からすると、そぐわないというか、その辺りの難しさもやっぱり出てくるというふうに思っています。ですから、中学校の２クラスというのを現状で考えていった場合には、ある程度校区の枠を超えたことも考えていかないといけないのかなというふうに思っております。

それか他市の例でいくと、例えば中学校区を外すと、一足飛びに広域になりますので、第一段階では、例えば義務教育学校というようなことで各地域に残し、第二段階としてさらに、広域の統合を考えていくというような、先程来出ていますが、第一段階を例えば、１０年先、２０年先、そこから第二段階が必要であれば、また何年か後に検討を始めるというようなところも睨んだ上で、計画化していく必要があるのかなというふうには、今のところ私はそういった考えでいますが、審議会の中でどういった決着、着地点を持っていかれるのかが分かりませんが、段階を経た配置や検討というのを、もっとする必要があるかなと、あくまでもその形で、一貫校ということだけにこだわらずに考えていくのが、安来の実態には合っているのかなというような気持ちもしています。

○平野委員

私もそこの地域とか中学校区に合わせた、小中一貫校なのか統合校なのか、そういったことも考える必要があるかなと思います。

○議長（田中市長）

私、議員生活が長かったものですから、小中一貫校の視察に結構行きまして、直近でも松江等に行きましたが、北海道だったと思いますが、別のところに小学校中学校がありまして、これも小中一貫校だというわけです。先生との交流とかいろいろな交流をする中で、何が小中一貫かと思っていましたが、校舎が一つではなく、少し離れておりまして、十神と社日くらい離れていましたが、それでも小中一貫校だと銘を打っておりまして、ですから、いろいろな形があると思いますし、今、一番大変なのは、中学校で部活ができないという状況が発生していま

して、私の住んでいる二中、それから伯太中は、おそらくもうすぐ野球ができません、バレーボールもできないという状況ですので、今現在でもぎりぎりの状況ですので、勉強とは違うのかもしれませんが、その辺のことはどういう状況かは分かりませんが、部活はどうなのでしょうか。

○秦教育長

部活動はやはり中学生にとって非常に大きな関心のあることで、いわゆる学習面だけではなく、体力的なものや、それから、生涯にわたって運動や文化活動に親しむというのは、豊かに生きていくためにとても大事なものだと思いますし、私も中学校の教員をしていた時に、のぼせてしていた人間ですので、その中で生かされるというか、生きてくる子ども達というのもたくさんいます。そうした部活動ができない、維持できない状況もみられているということで、一方では、来年度から、休日の部活動の地域移行というような話も出てきていますので、その辺りを組み合わせながら、大事にしていきたい活動だなというふうに思っているところです。

休日の部活動の地域移行につきましては、まだ具体的なことは県の方からも出ておりませんが、国の方で方針というか、こういうイメージというのはもう既に出されておりますので、それをどう島根型、安来型にこう組み替えていくというか、実態に合わせていくかということが、大事なところであるというふうに思います。ただ、部活動は子どもの成長には、非常に大切なものであるということは、自分の経験からしても言えることだというふうに思います。

○議長（田中市長）

スポ少は今、一つの小学校でできないもので、国道９号沿いはできるかもしれませんが、伯太も安田も母里も一緒で、ですから今度は中学校ですよね、例えば、二中と伯太中の部活なんて一緒にできないものでしょうか。

○秦教育長

今でももう、もし人数が足りなければ、合同チームというような形で大会等に出場が認められていますので、実際、ここ数年の間でも伯太中と二中という組み合わせだけではなく、人数の少ない部活動は一中であっても、別の学校と合同チームを編成して、大会に出れたというような事例もあります。

○議長（田中市長）

その場合は学校の名前が出せないから上に上がれないとか。

○秦教育長

いえ、そのようなことはありません。

○議長（田中市長）

１年生が集まらず、安来高校と情報科学高校と合わせないと１年生大会に出られませんでして、人数がいても入らないということもありますけど、そういうこ

ともあるのだと思いまして、それで、１回勝っても上に上がれないとか、はっきりとは分かりませんが。

〇秦教育長

今、中学校は合同チームでも勝ち上がることができます。

〇寺田委員

高校でもラグビーは、石見智翠館は一つで出れますが、確か江津高校と出雲工業高校が連合チームで出てますので。

〇議長（田中市長）

１年生が足りなくて２年生が入ると、勝っても上にあ上がれなくなると。

〇秦教育長

１年生大会では、２年生が入って１回は出れるけど、上には上がれないという状況ですかね。

〇議長（田中市長）

何にしてもやっぱり人が少ない。

〇寺田委員

確かに中学校、大分前ですが伯太中学校もだんだん部活がなくなってきて、帰宅部、要するに部活に入らずにすぐ帰る子は結構見られて、選べないから、野球とテニスとバレーボールしかなくて、本当にやりたいものができない。バスケットがやりたかった、卓球がやりたかったといっても、どうしてもできないということで、来年から地域移行になった時に、１人でも週のうち２回か３回は練習していて、週のうち１回か２回は合同で練習して、連合チームで出させてあげられるようなシステムを、早急に立ててあげれたらなというような気がしていますし、伯太でいうと、先ほど市長さんが言われたとおり、学校は一つにしなくてもよければ、伯太中学校と母里小学校は同じ敷地の中にあるような感じです。そこで、母里小学校の校舎を使えば、安田小学校、井尻小学校、赤屋小学校の生徒が賄える教室があると思います。どっちみち１クラスしかできませんので、そうすると、例えばお金をかけずに、そこで義務教育９年間の学校を試験的に行い、中身を充実させて、今度、建物は古いけど中身は素晴らしいと、それで米子から松江から人が来る、他所の県からも視察に来て、本当に充実していてサポートもすごいというような評判が立てば、そうすると親も一緒に移住して、伯太は土地が安いから家を建てて住もうか、というような構想ですが、できるのではないかという気がしています。

財政が厳しい中、新しい校舎を建てて、先ほど小村委員も言われたとおり、また３年後使わなくなったというようなことではいけない。できる施設を使ってやってみて、中身を充実してよければ、本当にいいものを建てればいい、というようなことができるのではないかという気がしています。

○議長（田中市長）

赤屋は少し遠いですかね。

○寺田委員

少し遠いかもしれません。気の毒とは思いますが、ただ、スクールバスとかハイヤーみたいなもので直にすれば、ぐるぐるまわると１時間以上かかるので大変ですが、２便３便でしていただけるのであれば、４０分５０分で通学できると思います。

○議長（田中市長）

要は、時間と距離ですか。

○秦教育長

概ね１時間以内というのを基準として出しておりますので、それこそ、例えば今の赤屋から母里か安田か分かりませんが、今の例でいくと母里ということだと、夏場であれば２０分から２５分で、バスそのものの運行はできるかもしれないと思います。

計画のどこを見越してという話も先程来ありますが、施設面からいくと、例えば今のような形で施設の改修でしていくのか、あるいは、新築というかそういった形で進めるのか、これによっても随分そのスタートの時期が、改修からだと準備が短いですし、もし新築ということであれば、当然、土地から求めるということだと時間がかかってしまうので、教育委員会会議でもありましたが、直近で立てた一中の校舎の例でいくと、竣工までに５年くらいの期間、建て替えでしたがかかりますので、財政的な面や、実際の建てる場所等そういうことを含めると、直近の例としては、そのくらい時間はかかるということでした。

○加藤委員

部活動の件ですが、文科省の号令でいうとあまり時間がないような状況ですが、それから具体的にニュースソースを見てても感じとれない、いわゆる財源はどうするんだという、子ども達も少なくなっているという市長さんのご心配も重なりながら、ただやはり部活をなくしていいのかというと、人間形成的に学校の教室以外で、先輩や後輩と触れ合えるのは部活だと思います。スポーツ、音楽活動、文化活動に限らず、先輩から教えてもらい、また後輩にそれを教えていくということが、人間形成にとっては大事ですし、社会に将来出て行く時も、これは欠かせないことだと思いますが、そういった意味でも、なるべく部活動の選択肢を減らしたくないというのは、共通の認識だと誰も思っていると思います。

ただ、受け入れ側からすると、本当に受け入れられるのかといった問題もあり、地域へ地域へと、文科省は簡単に言っていますが、では地域のどこに受け入れ先があるのか、それは本当に、週に２、３回程度しか私は教えないみたいなところもあれば、熱血漢がある人で、毎日見ると言われる方もおられるかもしれません

が、やはり差が出てきてしまうので、そういったところを解消するためには、やはり、ある程度の財源が必要なことではないかというふうに思いますし、安来は幸いなことに、体育協会は結構それぞれの支部が盛んに活動していますので、受け入れ先としては考慮に入れてもいいのではないかと思いますし、その中で私はテニス協会にいますが、そこでも、来年、再来年の話ですが、具体的にどうでしょうかというようなことも言われていますけど、受け入れることはやぶさかではないですし、できる範囲でやっていけるのではないかなと思います。もう子ども達も大分減って、今現在、運動公園に通ってきてくれる子どもも５０人前後くらいですので、それが例えば倍になったとして、広瀬・伯太からも来てくれるということになれば、それなりに人員も配置しないといけませんし、それなりに指導力の向上もしないといけないということになると、専従してもらう人は、１人は必要なのかと思うと、そういった方を、それぞれの、バスケットである、野球であるということになると、どこか１ヶ所に集めてしまうということが必要で、そうすると親御さん達の子どもの送迎の負担というのは大きいですし、クラブに対する費用もかかるかもしれませんが、ただ、なくすよりは継続してやっていかないと、今、寺田委員が、帰宅する子どもが非常に多くなる気がすると言われましたが、そういったことにも繋がりかねませんので、私も毎日のように新聞を見ていますけど、そういったニュースが全く報じられないのですが、何か進んでいる部分はありますか。

○秦教育長

委員ご指摘のとおりで、来年度から３年間を重点移行期間というふうに国は定めています。９月議会の一般質問もいただいたところですが、結局、スポーツ庁等が出された提言の中には、都道府県の推進計画というようなものがうたってありまして、答弁の時には、現状はまだ具体的な国の方針というか、手だてが示されていないので、安来でどうするかということをすぐにはできないのですが、県の方の推進計画の次に市町村の推進計画というような、一応、段階を追って準備するというふうに書いてあり、県議会の方でも、質問等が出たりしています。もう一つ２０３０年に、島根の国民スポーツ大会もあって、直近のところで先ほど言われたように、指導者の方が仕事を持ちながらということになると、確保することは難しいので、国民スポーツ大会に向けた強化と、地域移行に向けたこの流れを一体化させて、指導者の発掘・養成とか、そういったことに進めていきたいというようなことは、確か先日の県議会答弁ではあったように承っております。ただ、加藤委員おっしゃるように、具体的に令和５年度から何をするのかと言われた時に、なかなかまだはっきりしない部分が多いというのが正直なところです。

今、県の事業を受けて、雲南市辺りは地域移行の先行事例ということで、事業を受けていらっしゃいますが、団体がキラキラ雲南でしたか、そういう団体があ

り、そこで月１回程度、各中学校から子どもを集めて活動しているというような話は伺っております。その辺りの様子も今年度中には伺って、安来でどういうふうな形でできるのかというようなことは、検討していきたいと思います。

○議長（田中市長）

小中学校の適正配置につきましては意見がでましたので、次の、小中学校、高等学校の安来市の教育についての説明をお願いします。

○三保学校教育課長

学校教育課の三保です。私からは、安来市の小中学校の教育についてご説明をいたします。資料の１５ページにあります教育大綱に示す、基本方針の１、①から③については、学習指導要領に示す生きる力を育む要素となります。それに加え、④については、安来市の教育資源である、ひと・もの・ことを通した教育を推進し、ふるさと安来を愛し、地域貢献できる人材育成を目標としております。学校教育課としては、この４つの目標と、⑤となる、例えばＩＣＴの活用教育等、学びを支える教育環境の充実を合わせ、安来市の学校教育の推進を図っております。

それでは、安来市の学校教育として、現在、力を入れている３つの特徴的な取組について、ご説明をいたします。１９ページをご覧ください。まず最初に、幼児期と児童期との学びの連続性を大切にした取組についてです。安来市では、平成２７年度から、保幼小の連携をさらに進めるために、就学前施設では、アプローチカリキュラムとして、また、小学校ではスタートプログラムとして、遊びを中心とした活動から就学までに身につけたい力や、就学してからの学習について共通理解を図っております。これにより、各施設や小学校での取組や課題を共有して、接続期における子ども達が適応できるよう、指導、支援に生かしております。

２０ページをご覧ください。２つ目になりますが、小中の連携についてご説明いたします。平成２６年度、２７年度に安来一中校区、平成２８年度から安来市内全校区において、子ども達の意識調査を基にした取組を進めております。特に、授業に主体的に参加している、授業がよく分かる、の２点の調査結果の推移から、各校区及び各校で、授業改善のＰＤＣＡサイクルを進めていき、不登校の未然防止等を進めております。これは学力向上の取組と、生徒指導の要素に深く関わるため、子どもの意識調査の数値目標を意識した取組となるよう、管理職に伝えております。

３つ目になりますが、戻りまして１７ページになります。先ほどの説明とも重なりますが、学力向上の取組についてです。委員会としては、学力向上の担当者を始め、他の指導主事や指導講師の複数で学校訪問を年２回実施し、聞き取りから、授業改善の視点について指導助言をしております。他にも、今年度から３年

間、県の学力育成プロジェクト事業を受託しまして、安来三中、荒島小で取組を進めています。理系科目である算数と数学、理科が学力向上の指針としております。先ほどのお話にもありました授業改善とともに、家庭学習の推進を図るため、タブレット端末を持ち帰り、ＡＩドリルの活用を今後進めて参ります。現段階において、子ども達は積極的に取り組んでいます。今後は、保護者には、タブレットを家庭で学習に使うことに対して、不安や誤解がないよう、そして家庭で、学習に関して前向きになれるような励ましの声掛けをしてもらえるよう、理解を深めていきたいと考えております。私からは以上でございます。

〇淀谷やすぎ暮らし推進課長

続きまして、高等学校の安来市の教育について、そのまま説明させていただきます。やすぎ暮らし推進課長の淀谷でございます。よろしくお願いいたします。

資料の方は資料４ということで、８５ページ、８６ページの方をお願いしたいと思います。本課が所管いたします定住施策の一つに、高校魅力化の推進というのがございます。先ほど市長のあいさつの中にもありましたように、若者の市外流出、県外流出というのは、市にとって非常に大きな損失ということでございます。そういった中で、本課といたしましては、市内高校への進学や、県内大学への進学、それから県内企業への就職、市内への定住と、こういった一連の流れを、一つの定住還流サイクルというふうに捉えておりまして、高校魅力化推進事業の目的の一つだというふうに位置付けて、考えているところでございます。

本日はその入口となる、市内高校への進学、県内大学への進学の現状、それから、今現在行っている取組につきまして、簡単にご説明をさせていただいて、皆様方からご意見なりご助言の方を、いただければというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

それでは資料の１、経過の方でございますが、経過なり、概要につきまして、かいつまんで説明の方をさせていただきたいと思います。平成３１年になりますが、島根県教育委員会の方におきまして、県立高校魅力化ビジョンというものが策定をされまして、県内自治体におきまして、高校魅力化を推進していくということになっております。下段に高校魅力化推進事業のイメージということで、掲載をしておりますが、併せてご覧いただきたいと思います。本市におきましては、高校魅力化を推進していく中で、高校と地域の多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む共同体制ということで、情報科学高校、それから安来高校それぞれに、コンソーシアムを設置しております。コンソーシアムの参画団体でございますが、書いてありますように、高校、行政を始め、経済団体、それから企業等々でございます。また、コンソーシアムの運営や、地域課題解決型学習のサポート等、活動を支援するコーディネーター役として、高校魅力化推進員を配置しているところでございます。先ほどあいさつにもございましたが、１１月から

１名増員をさせていただきまして、現在２名体制というふうにしております。このポイントでございますが、地域とともにある高校の実現ということで、これも記載してありますが、地域資源を活用した学習の実施、それから地域の担い手を育成することにあります。これまであまり関わりがなかった、高校と地域が協働体制を築いて、授業や活動を行うことで、高校地域ともに、魅力あるものになっていくというふうに考えております。

続きまして、８６ページの方をご覧いただきたいと思います。２、若者の地元定着についてということでございます。先程来、人口減少の話が出ておりましたが、本市におきましては、高校進学時、それから大学進学時、それから就職時に多くの人材が流出をしておりまして、上段にあります図が、その実態に近いイメージ図でございます。図を下から上を追ってご覧いただきたいと思いますが、まず、黒枠の市内中学校というところがあると思いますが、こちらから１の部分になります、市内高校、安来高校・情報科学高校になりますが、こちらへの進学が５１％で、１６８人となっております。一方、市外高校、主に松江市や米子市、就職も含むわけでございますが、こちらへの進学で４９％、１６２人というふうになっております。記載はしておりませんが、市内中学校、令和３年実績で３３０人でございますので、５１％と４９％でこのような内訳になっております。この時点で約半数が、安来市を一時的にでも離れるということになります。近隣の市と比べまして、市外高校への進学割合が高いというふうになっておりますが、これにつきましては、県境に位置する市の宿命なのかなというふうにも考えているところでございます。その後、②の部分でございますが、市内高校から県内大学、島根大学や、島根県立大学になりますが、こちらの方に３３％、人数でいうと７６人が進学ということになります。逆に４５％、１０６人が県外大学等に進学するということになっております。この県内大学３３％と県外大学４５％を合わせますと７８％になりますので、残り２２％が、大学等に進学せずに、一般的に就職するということだと思います。さらに③の部分、赤い矢印のところに２ヶ所ございますが、右側の③で、県内大学卒業後、県内企業に就職する割合というのがございまして、こちらは６０％でございます。人数の把握はしておりませんが、割合を掛けますと、４６名ということになるかと思います。一方で左側の③になりますが、県外大学を経由して、県内企業に就職する割合、こちらは約３０％で、割合を掛けますと３２名ということになります。ですので合計が７８名、これが県内企業に就職されてということになるかと思います。元に戻っていただきますと、市内中学校３３０人の卒業生のうち、７８名ですので約２３．６％、４分の１に満たない学生が、県内企業へ就職するというようなイメージになるかと思います。また、県内大学を卒業した場合は、県内企業への就職が６０％、県外企業への就職が４０％というふうになっておりますが、逆に県外大学を卒業して、

県内企業に就職する割合というのが３０％で、県外企業に就職する割合が７０％、県内大学を卒業した場合と、割合が逆転しているということが、お分かりいただけると思います。この数字の中には、一番下の市外高校等と書いてありますが、こちらから最終的に、どこに進学をされてどこに就職をされたか、そういったものが含まれておりませんので、あくまでもイメージということでご理解をいただきたいと思います。こういったことから、若者の地元定着におきましては、①から③、こちらの赤い矢印の取組が重要であるというふうに今、認識しているところでございます。

続いて、３、事業戦略についてご説明をしたいと思います。先ほど説明した人材流出の機会となる①②③に対応する形で、効率的な施策展開を行っていかなければならないというふうに考えているところでございますが、まず、①の中学校から高校へ進学するタイミングでは、地元中学校と地元高校の関わりを強化しまして、地元高校の魅力を十分に伝えた上で、中学生自身のキャリア形成に応じた進路選択を推進するために、中高連携事業というものを行っております。中学生が描く将来の夢や、就きたい職業、こういったものが、地元高校では叶えられないのか、今一度立ち止まって考えてもらう機会にするためのものでございます。具体的には、中学生向けのプログラミング教室や部活動の交流、それから高校オープンスクールや、体験講座等、中学生を対象とした事業を推進しております。その下の方に、理想的な進路決定の流れということで図を載せておりますが、小中学校の頃から魅力的な高校が身近にあり、普段から交流できる環境にあれば、その子達が地元への意識醸成や意識付け、こういったものも期待できるのではないかというところでございます。

続いて、②の高校から大学へ進学するタイミングでは、県内大学との連携事業の企画や実施によりまして、高校生の地元進学、それから将来的な地元企業への就職を推進するために、高校と大学の高大連携事業というものを行っております。具体的には、県立大学と連携いたしました、県大未来アトリエ、これは一風亭の方で実施しております。それから、島根大学と連携いたしました、次世代たたら協創センターＮＥＸＴＡとの企画実施、こういったものを行っております。実際に大学の先生の講義を受けながら、高校生を大学生がサポートする等して、地元大学を身近に感じてもらい、地元大学への進学を促すといったものでございます。③の若年層の定住推進事業につきましては、本日の会合の枠から離れますので、説明の方は割愛をさせていただきたいと思います。

以上、ご説明申し上げましたように、若者の人材ベースの起点となる①や②の場面に特に力を入れることが、ひいては地域を担う人材の確保であったり、人材還流サイクルの構築に繋がるものだということで、高校魅力化推進事業における目的の一つというふうに考えて、実施をしているところでございます。説明は以

上でございます。

○議長（田中市長）

皆様、質問等ございますでしょうか。

○秦教育長

私も、①の市内中学校の生徒が卒業時に、市内の高校を選択してくれる割合を高めたいというのを、ずっと中学校に勤めていた頃から思っておりました。安来という土地柄で、松江・米子にある面行きやすいですので、どうしても米子であれば私立高校ですし、松江でありますと南北東の普通高校や、専門高校というところも結構あるかというふうに思っています。市内の高校にもっと率を上げるためにはどうしたらいいのか、ということも考えていましたが、なかなか中学３年になってから地元へといっても、それ以上の呼びかけはできずに、本人や家庭の考えで、米子・松江を受けたりする子どもも当然あるわけです。もっと早い段階から高校生と関われるようなことができないかと思っていて、昨年度辺りから小学校のプログラミング学習がありますので、情報科学高校に、二中校区の小学６年生が集まって、高校生から教えていただくというような授業を展開しておられます。これもＩＴキッズや安来部会という、コンソーシアムの一つの部会でやっていらっしゃると思いますが、そうしたことの積み重ねがすごく大事ではないかというふうに思っております。それともう一つ、選ばれる際に、部活動がどうなのかとか、勉強以外のところの魅力がどうなのかというようなところを、口コミで先輩の話が下級生に伝わっていくといいますか、そういったこともあり、情報科学高校ｅスポーツ部、今同好会ですか、部活動ですかね、ｅスポーツ部が発足した年は、多くそれを目標に進学したというのもありますが、なかなかｅスポーツを活発にやっていくというのは、ハードの面からもいろいろ難しいことがあるという話を少し伺っています。そういった地元高校の魅力を、例えば部活動でこういったものがありますよとか、そういったことの発信もしっかりしていただくことが大事かなというふうに思っています。それと、できれば小学校段階くらいのところから、地元高校との交流が根づいていき、子ども達の考えの中に、地元高校という選択肢の考えが増えていく、そういうことが大事なのではないかというふうに思っています。

○小村委員

これも少子化の影響だと思いますが、市内の高校に進学したいが、選択肢は普通科と、情報科学高校はＩＴ関係ですよね。他の選択肢がないので、今の話、農林に行きたいという子は松江に出ざるを得ないし、昔は農業科が安来高校もあったりして、選択肢はあったんだろうと思いますが、要はもうこのご時世ですので、学級数もだんだん減っていますし、情報科学高校の定員も縮小されているのではないかと思います。これはどうしようもないのですが、情報科学高校は、今、情

報関係の学科しかないのですかね。それで、他のことをやりたい人はどうしても他所へいかないといけない、それは致し方ないと思います。私は分かりませんが、中学生というのはもう自分の将来を見据えて、こういったことをしたいから農林に行くとか商業に行くとか、そういう進路はどうなんでしょう。

○秦教育長

一応、進路選択でこういう理由があってということは子どもも言いますが、実際、子どもで自分の将来はもうこれだというのはなかなか。

○小村委員

入れるところにという選択もあるし、やはり市内の高校に行って欲しいという思いは、いろいろな手だてを現在打っておられるので、そういうものに引かれて進路を決める子も、これから出てきてくれるといいなと思います。その先はもう、それこそ島根大学と島根県立大学もまた、限られた教育内容かもしれないし、こんなことが学びたいということで、島根県内の大学にはないということであれば、また県外に行かざるを得ないという、これも致し方ないといえば致し方ないのですが、多分、大学の数を増やすということはおそらく現実的ではないので、その中身についてまた魅力あるものにしていかないと、本当にどんどん外へ出ていくのではないかなと思います。最終的に働き口、先ほどの話ではないですが、最終的に戻って何をしたいのかというのは、大学等に行っている間に、ある程度それぞれ目標とかが見つかると思いますので、そういった勤め先が県内にも、本当はいろいろな選択肢ができるといいのですが、これもなかなか難しいのかなという部分で、今コロナで、別に会社に行かなくても、地方でも仕事ができるような形も構築されていますので、そういったことで戻ってくる子ども達も増えてくるといいかなと思います。子どもが減っていくというのが、島根県はいろいろなことにマイナスに働くことが多いかなと。

○議長（田中市長）

島根県立大学の学長さんが、今年の１月でしたか来られまして、県内の市としては初めてだそうですが、一緒にやっていこうということで、包括連携協定を結びまして、安来は大学がないので、サテライトで作ってもらえませんかという話をしたら、学長が本当に作ると言われまして、今、この未来アトリエという事業を一風亭を利用して行っていただいていまして、特に若い方にどんどん関心を持ってもらわないと、島根県立大学は県内の人が少ないと、島根大学もそうですが県内の人の入学数が少なく、受ける人も少ないのかもしれませんが、そういうことで、県内の人が大事だという話をされまして、とにかく推薦を増やしたいので、どんどん伸ばしてほしいという話でした。応募してくれと、受験してくれというのですか、そういう話がありまして、それで一応今のところ、ずっと高校生を対象にして、大学生と学校の先生とでしていただいていますが、この図にもありま

すように、県外の大学に行かれた時に帰ってくるのは、安来のことを分からないと帰ってきませんので。

私も仕事柄霞ヶ関に行きますと、一番よく行くのは農林水産省ですか。そこの偉い方で、安来の方が３人くらいおられます。皆ほとんど、松江北高校か松江南高校に行き、東京大学や京都大学等に行かれて、その後入られて、それで出世しておられまして、その方々も同じに言われます、安来に何があるのか分からなかったと、自分の目指すところはもう国だったということを最初から言われます。やはり志のある人は、そういうふうに東京大学等にも行かれますが、全てがそういう人達ではいけなくて、やはり地元に残ってもらうなら、小学校の時から、もっと地元のことを知ってもらわないといけないということを、今、コンソーシアムの２人にもずっと話をしていまして、小さい時から安来のことを知ってもらうために、何をしたらいいかということも、考えてもらわないといけないということになっていまして、いろいろなことを言いますが、とにかく安来のことを知らずに、どんどん出てしまいますので。

魅力化が始まったのは、プラットフォームができて、隠岐の島に子どもがいないからということで、呼んでこられて始めておられるようでして、いろいろなことをしておられます。大体、中山間の学校です。吉賀高校とか横田高校とか、人がなかなか集まらないところに、県外から呼んでこられるのが、大体このプラットフォームだったりします。しかし、安来はそうではないのです。ですから、呼んでくるよりも出さない、ということでやっていかないといけない。少ない人数ですので、小中学校が高校と繋いでいかないといけない。ある企業では、今年１９人募集して、１３人しか来なかったということです。ですから、安来に勤めようとする人に選んでもらえないわけです。大卒を採用したくてもなかなかこない。それで今、小村委員が言われましたが、リモートで仕事をするようになると、製造業はあまり向かないようでして、安来の主力である製造業とは少し違った企業を呼んでくることも、こちらにも関係するかと思い、我々ができることは、そういうことをやらないといけないということだと思います。

○寺田委員

まさしく、引き出さないとというか、一旦出た人も戻すということで、今、社会的に大学生が就職を選ぶのに、リモートがある企業を選ぶのが８割だそうです。要するに出社したくなくて、自分のとこでという、そういう環境を安来でも整えて、サテライトみたいなところで十二分に仕事ができるというような、個人住宅を作ってあげるとか、それも一つですし、県外の高校に出ると、普段は全く安来のことを忘れてしまって、戻ろうかということもないので、以前にもお願いしたと思いますが、ふるさと便みたいなことで、年に１回か２回でも、安来の特産品に付け加えて、安来の情報とか、こういったところで求人があるので、ぜひ戻っ

ておいでよというような、心温まるお便りもつけてあげると、戻ってくるのではないかというような気がしていますし、その辺りも、今、少しずつ企業が動き出して、求人が取り合い状態みたいなことで、いち早く手を挙げて、安来は万全な体制で、企業的には少ないかもしれませんが、働きやすい、住みやすい環境ですということを訴えながら、戻ってきてもらう、外に出さない、できれば他所からも入ってきてもらえる、というような施策をお願いしたいと思います。

○議長（田中市長）

サテライトオフィスを今いろいろ作っていまして、一回は一つ大きな会社にセールスに行って、大体いい話になっていましたが、松江に取られてしまいまして残念ですが、まだまだ今後もやっていきますし、市内の街中や少し離れたところにも開設するようにやっていますので。

○平野委員

情報科学高校に、県外からたくさん学生さんが来ておられると聞いて、私、広瀬なのですが、広瀬に寮があり、地域の住民も、あそこに何十人もいらっしゃるとなかなか知ることがなく、去年くらいから知り、交流するようになったのですが、何かそういった、市内の小中学生が、そのまま市内の高校に進学するのもいいが、市外や県外から来てくださる方もたくさんいらっしゃるので、何か受け入れ側も、その人達が生活に困らないような支援をもう少し手厚くして、県外から来ていただくのもいいかなと思います。その人達は結局帰ってしまうのかもしれませんが、定住に繋がればいいのかなと。

○議長（田中市長）

それが大変なとこですが、今、下宿生の支援もしていまして、広瀬はご存知のように市の施設で、男の子がほとんどですので、女の子は遠くからは難しいということで、お願いしていろいろ作っていただいたりしています。街中にないとやはりいけませんので、ちゃんとしたところを作っていただいています。それについても、全体的にこちらに下宿していただける方の施策もいろいろ講じていますので、今言われたように、発信が十分できていないとこもありますので、またやっていかなければならないと思っています。

もう少し多く来て欲しいのですが、遠くから来るとまた帰ってこいと言われることもございますので、安来の良さを分かってもらい、その広瀬の受け皿というのもまた作っていかなければならないと思っています。

続きまして、３の状況報告をお願いします。

○神庭総務課長

私の方から、安来市ＩＣＴ整備に伴う授業改善についてということで、資料紹介程度、ごく簡単に報告をさせていただきたいと思います。内容につきましてはPepperの活用についてということで、今年度４台のPepperをレンタル開始して

おります。資料の８７ページ、８８ページをお願いいたします。小学校の方には、３台の Pepper を前期後期に分けて、それぞれの小学校で活用をいただいております。前期は荒島小学校、赤屋小学校、宇賀荘小学校において、活用をいただいております。すみませんが内容につきましては、お読み取りいただきたいと思います。

８９ページをお願いいたします。一方、先程来ありました、情報科学高校との協働による Pepper の活用についてということで、もう１台は情報科学高校の生徒さんにプログラムしていただいて、この安来庁舎１階に現在置いております。受付案内をさせてみて、不具合があればまた情報科学高校に持ち帰って、プログラムの手直し、というようなやりとりを計画しておりますので、ぜひお帰りの際に、触ってみていただければと思います。以上です。

○議長（田中市長）

この Pepper につきましては、情報科学高校にスーパーサイエンス校ですか、にしていただいて、ソフトバンクさんが説明に来られた時に、Pepper はいくらしますかということで、なかなか高いものだそうですが、学校の生徒や役所であれば、割安でということで入手させていただいておりますので、また利用していただければと思います。

○秦教育長

お知らせですが、Pepper ではありませんが、安来市もＩＣＴ環境教育を非常に力を入れて、ハード整備はもちろんですが、授業にどう活用するかというところを今進めていますが、１１月３日に島根教育の日フォーラムという、島根県教育委員会主催のフォーラムがくにびきメッセでありましたが、島根県教育委員会がＩＣＴ活用の参考事例ということで、小中学校では安田小学校と伯太中学校が取り上げられて、ＰＲＤＶＤを上映されました。その他には県立高校が紹介されていましたが、小中学校は安来の学校がそれぞれ選ばれて、制作をしていただきました。島根県教育委員会のホームページで、一般公開をするということも言っていましたので、この Pepper の活用も含め、ＩＣＴ活用が非常に今進んできているということを感じて、嬉しく思いましたのでお知らせをいたします。

○議長（田中市長）

そういたしますと、続きましてレジメ４のその他ですが、事務局から何かございますでしょうか。

○神庭総務課長

皆様大変お疲れ様でございました。次回につきましては、教育大綱策定のない年、今年は策定のない年ですが、その年は翌２月頃に開催をしておりますので、改めて今年も日程調整をさせていただいた後に、お知らせをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（田中市長）

今日はなかなかまとめができませんでしたが、今後もいろいろなご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。今日はどうもありがとうございました。